知床科学委員会しんぶん

河川工作物アドバイザー会議 No.18

「河川工作物アドバイザー会議」では、災害から生活を守りながらサケ類が遡上できるように、各専門家が行政機関に対して、ダムの改良工事やモニタリング等について科学的視点から助言をしています。しんぶんでは、その活動についての情報をお知らせしています。

今回の会議

令和2年1月28日に、札幌市中央区のTKPビジネスセンター赤れんが前において令和元年度第2回河川工作物アドバイザー会議を開催しました。

会議の内容について

1 オショロコマ長期モニタリングについて

知床半島の37の河川で水温、オショロコマ生息密度などの長期モニタリング調査が行われています。北海道森林管理局はモニタリングのさらなる充実を図るため、令和元年度より知床半島先端部の5つの河川（ポンベツ川、チャカババイ川、クズレハマ川、カモイウンベ川、ペキン川）を加えて42の河川で調査を行い、その半島先端部の5つの河川水の環境DNA分析からオショロコマの生息を確認したと報告しました。

▲半島先端部ペキン川の様子

2 サケ類長期モニタリングについて

北海道森林管理局、北海道は2年に1回、ルシャ川、テッパンベツ川、ルサ川で実施しているサケ類遡上モニタリング調査に関して、2年前に比べてカラフトマス遡上数はルシャ川では同程度、テッパンベツ川で増加、ルサ川で減少したと報告しました。またカラフトマス産卵床数は、ルシャ川、ルサ川、テッパンベツ川の順に多い傾向があり、産卵床密度は過去と比較して大きな変化は見られなかったと報告しました。

3 イワウベツ川の2つのダムの改良検討について

イワウベツ川では近年サクラマスの遡上数が増加し、イワウベツ川中流域のダム直下まで、多くのサクラマスが遡（のぼ）って来ています。こうした状況を受けて北海道森林管理局では、第二次検討ダムとしてイワウベツ川中流にあるNo7ダム、No3ダムの改良検討を始めることを報告しました。特に昭和41年設置のNo3ダムは老朽化が見られることから、改良にあたっては補修対策等の調査を実施し、治山施設の効果を兼ねながらサケ科魚類遡上が両立できる改良方針を立てていくことを説明しました。

▲イワウベツ川No7ダム

▲イワウベツ川No3ダム

Topic!

知床世界自然遺産における河川工作物に関する IUCN諮問ミッションが招聘される！！

◆現在進行中のルシャ川での取り組みについて、可能な限り自然な状態に回復するためにIUCN（国際自然保護連合）のサケ科魚類専門家ピート・ランド氏を招いて助言を得るミッションの招聘が令和元年9月24日～25日に開催されました。

◆ピート・ランド氏は、9月24日に河川工作物アドバイザー会議委員・オブザーバー、関係行政機関とルシャ川を訪れ、①ルシャ川を横断する道路の低い箇所を石組み河床路とした実証試験地、②ルシャ川の改良中の3つのダム(うち2つのダムは幅40m、高さ80cmで切下げた直後)を視察しました。

▲ルシャ川の石組み河床路現地視察

▲北海道森林管理局から石組み河床路の説明を受けるピート・ランド氏(中央)

▲ルシャ川のダム切り下げの現地視察

▲ダム切り下げについてピート・ランド氏との意見交換

◆9月25日はウトロ漁村センターで、現地視察をふり返りながらピート・ランド氏との意見交換が行われました。ピート・ランド氏からは、「ルシャ川をより自然の状態に戻そうとする取り組み、特に3つのダムの改良については積極的で良い印象を受けた」との意見が述べられました。

会議の内容をもっと知りたい方はコチラ

知床データセンター
http://dc.shiretoko-whc.com/

■ 問合せ先 ■

北海道森林管理局 知床森林生態系保全センター
〒099－4355
斜里町ウトロ東番外地（国設知床野営場内）
TEL：0152-24-3466
FAX：0152-24-3477

■ 発　行：林野庁北海道森林管理局
■ 制　作：株式会社 森林環境リアライズ
発行日：2020年 3月 8日

▲意見交換の様子

▲意見交換にてコメントをするピート・ランド氏(中央)